第６章　総括

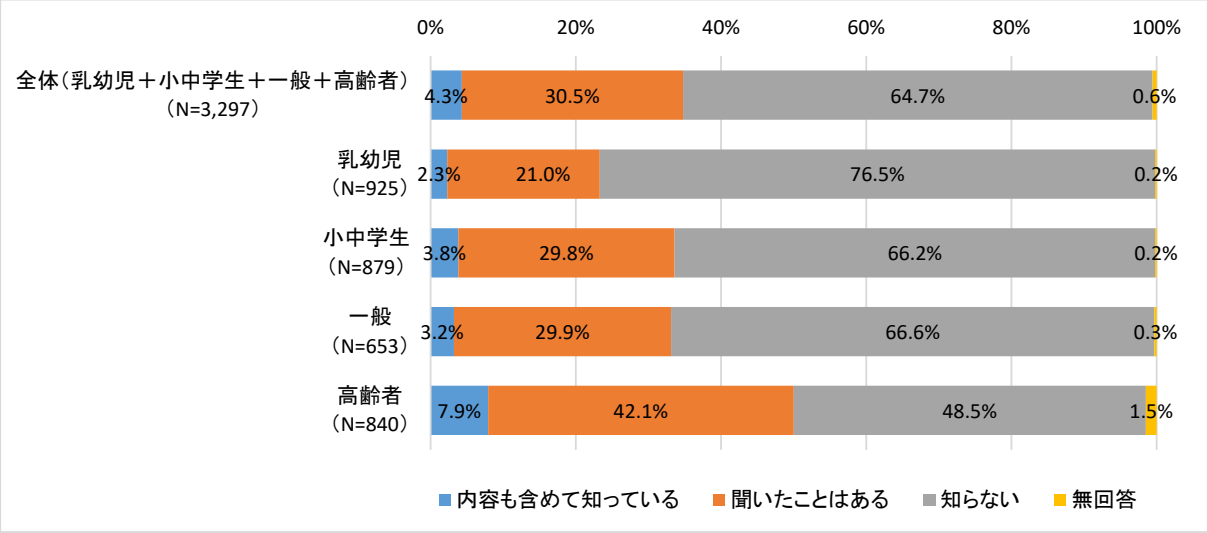
第６章　総括

【共通項目】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

1　セーフコミュニティについて

【セーフコミュニティの認識度について】（全体・乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

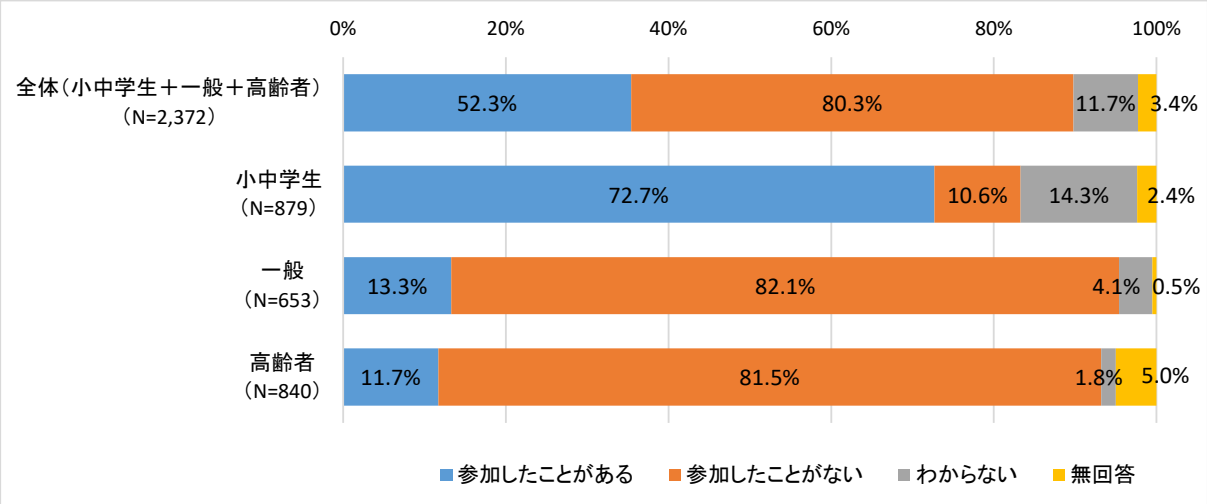
セーフコミュニティの認識度については、「知らない」の割合が、乳幼児が 76.5%、小中学生が 66.2%、一般が 66.6%、高齢者が 48.5%となっており、乳幼児・小中学生・一般に比べ、高齢者の認識度が高くなっている。



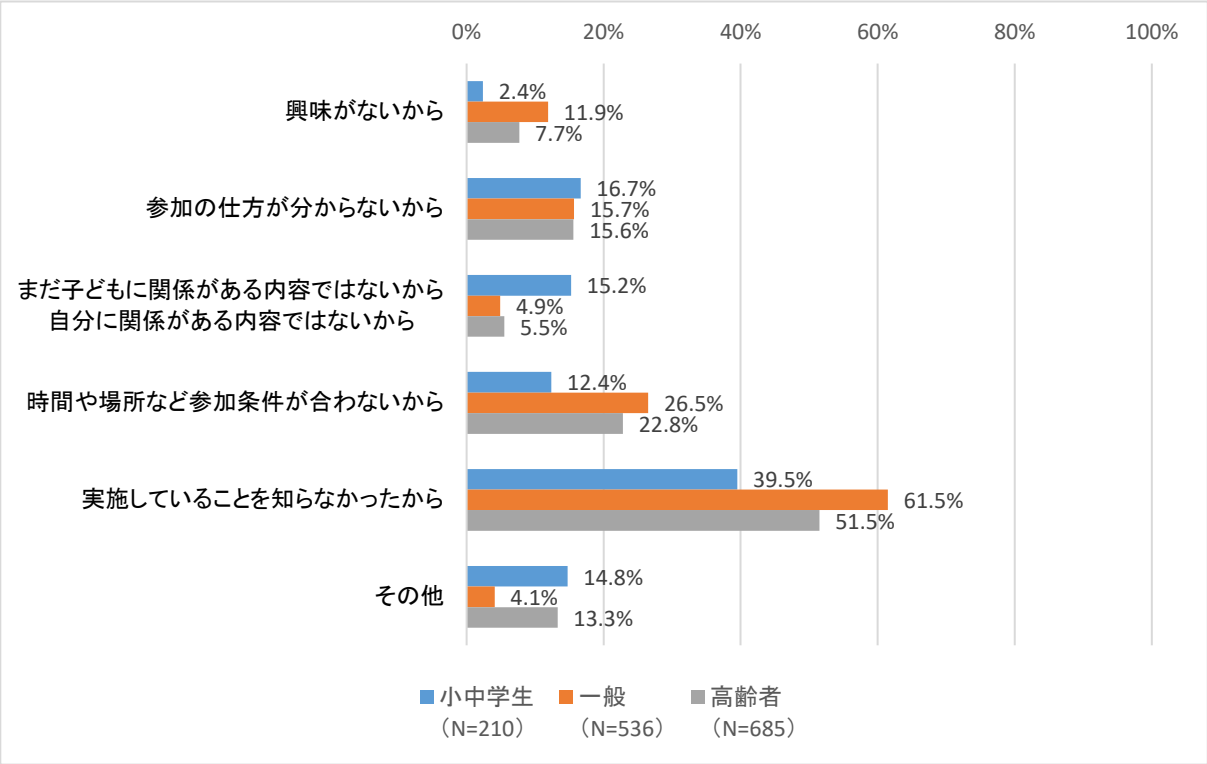
2　交通安全について

【交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について】（全体・小中学生・一般・高齢者）

交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがない」の割合が、小中学生が 10.6%、一般が 82.1%、高齢者が 81.5%となっており、一般・高齢者に比べ、小中学生の参加率が高くなっている。

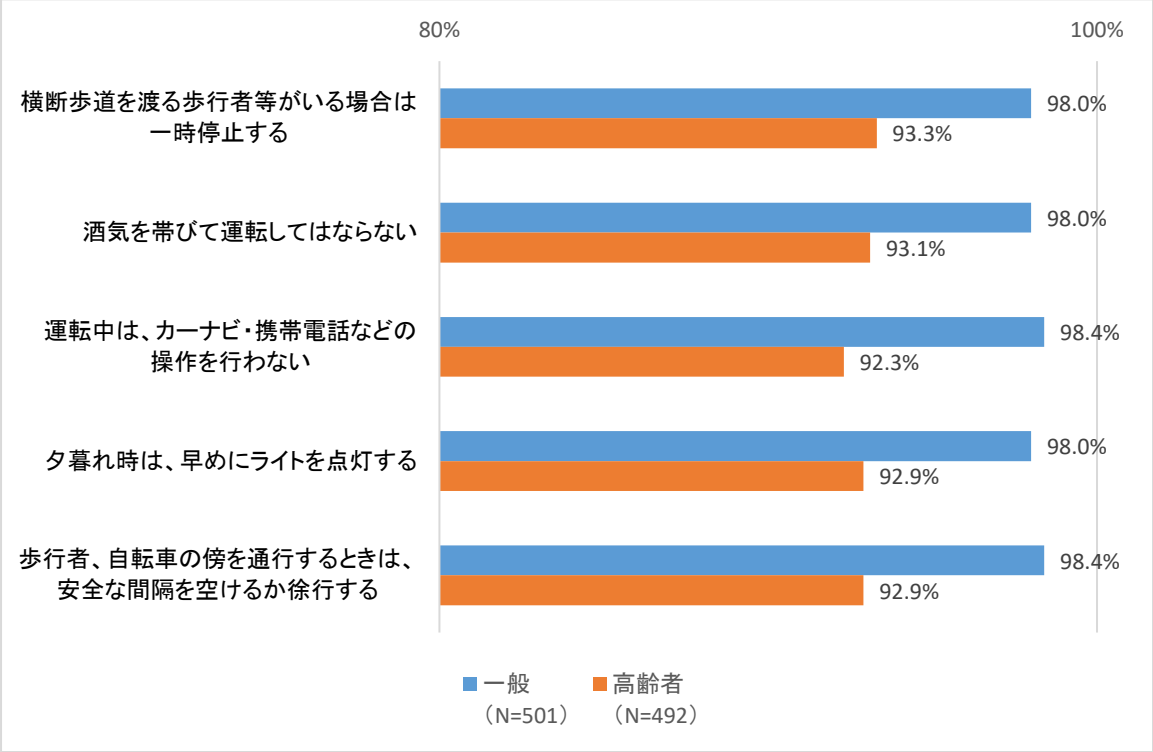


交通安全教室に参加したことがない理由については、いずれの対象者においても「実施していることを知らなかったから」の割合が突出して高くなっている。



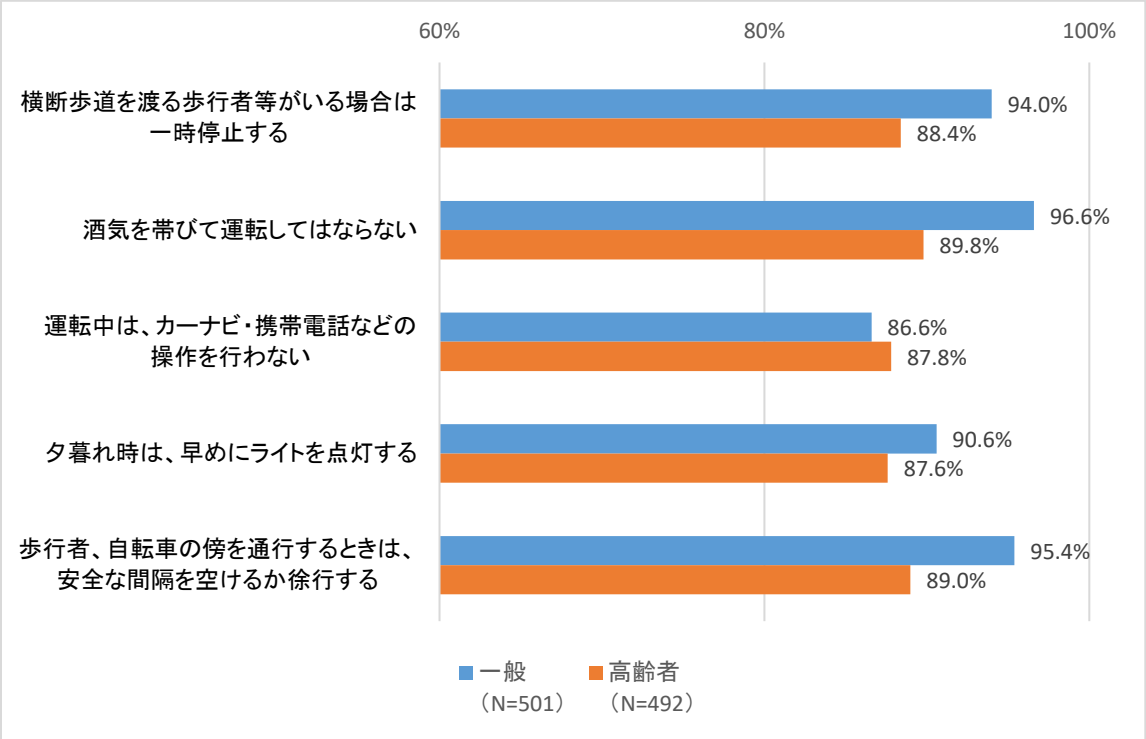
【自動車の運転に関する交通ルールの認知度について】（一般・高齢者）

自動車の運転に関する交通ルールの認知度については、一般の 98.0%～98.4%に対し、高齢者は 92.3～93.3%と低くなっている。



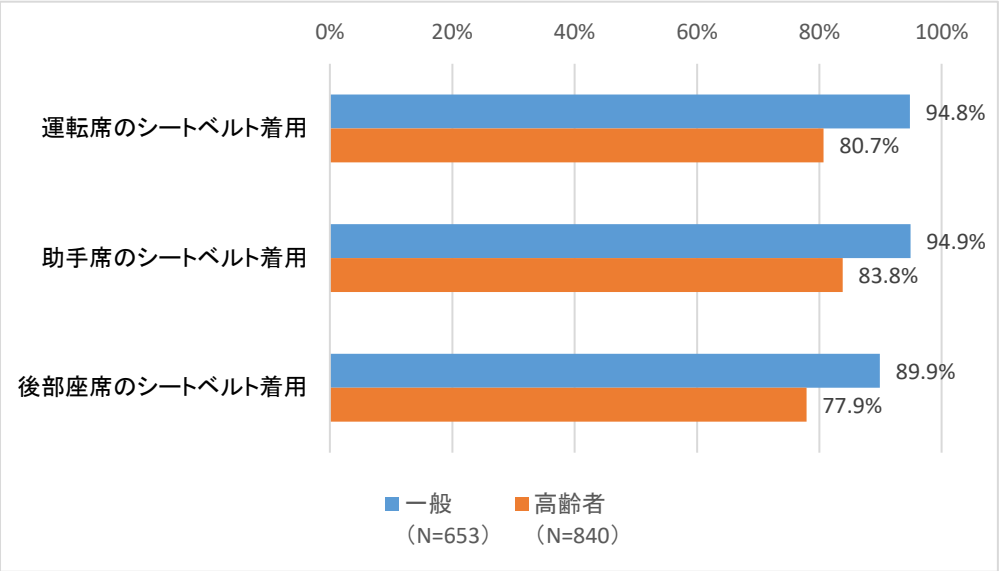
【自動車の運転に関する交通ルールの遵守度について】（一般・高齢者）

自動車の運転に関する交通ルールの遵守度については、一般の 86.6％～96.6％に対し、高齢者は 87.6％～89.8％となっており、一般は高齢者と比べ、「運転中は、カーナビ・携帯電話などの操作を行わない」を除く項目の割合が高くなっている。



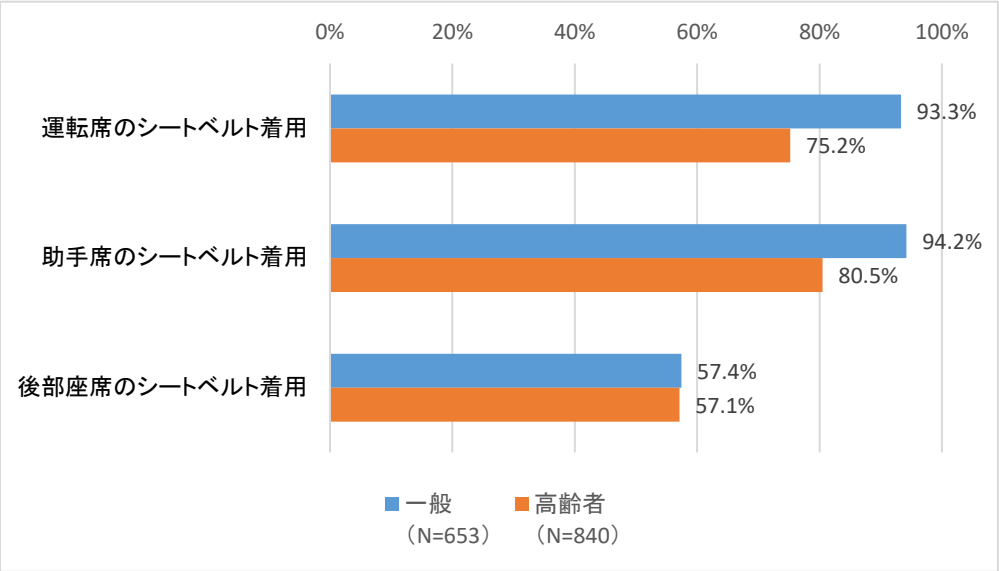
【シートベルト着用の認知度について】（一般・高齢者）

シートベルト着用の認知度については、一般の 89.9％～94.9％に対し、高齢者は 77.9％～83.8％と低くなっている。



【シートベルト着用の遵守度について】（一般・高齢者）

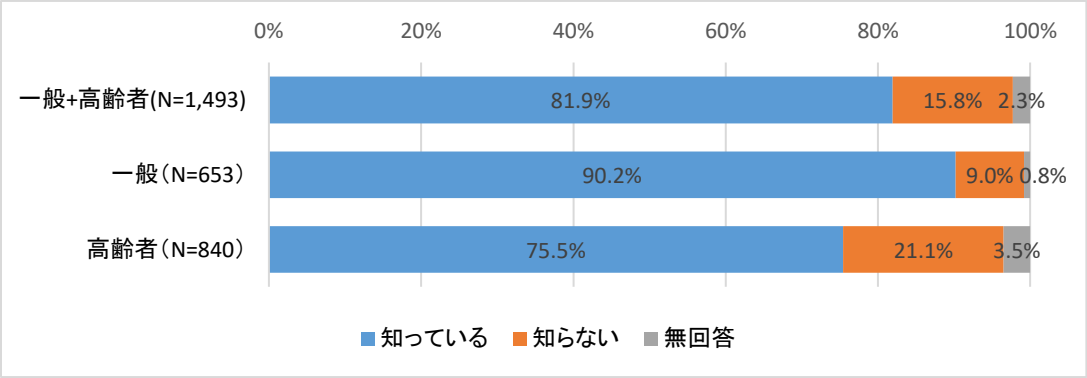
シートベルト着用の遵守度については、一般の 57.4％～94.2％に対し、高齢者は 57.1％～80.5％となっており、一般は高齢者と比べ、「運転席のシートベルト着用」と「助手席のシートベルト着用」の割合が高く、「後部座席のシートベルト着用」はほぼ同じ割合となっている。



3　高齢者の安全について

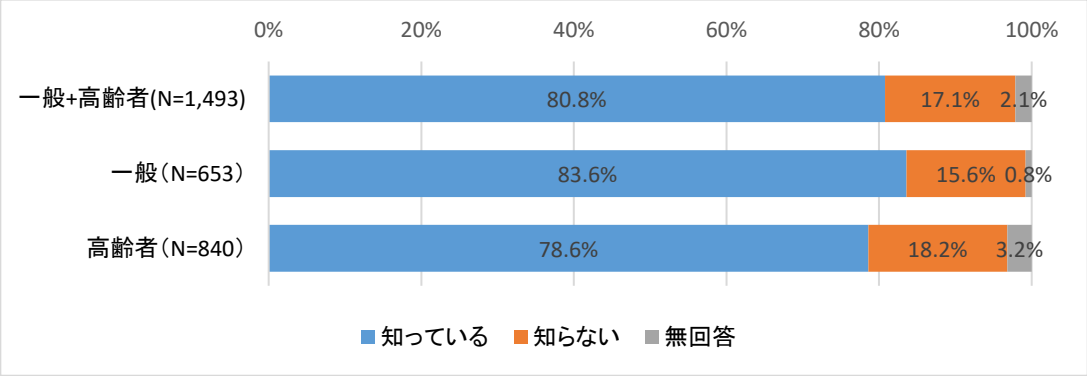
【認知症は病気によるものであることへの理解度について】（全体・一般・高齢者）

認知症は病気によるものであることについては、「知っている」の割合が、一般が 90.2%、高齢者が 75.5%となっており、高齢者に比べ、一般の理解度が高くなっている。



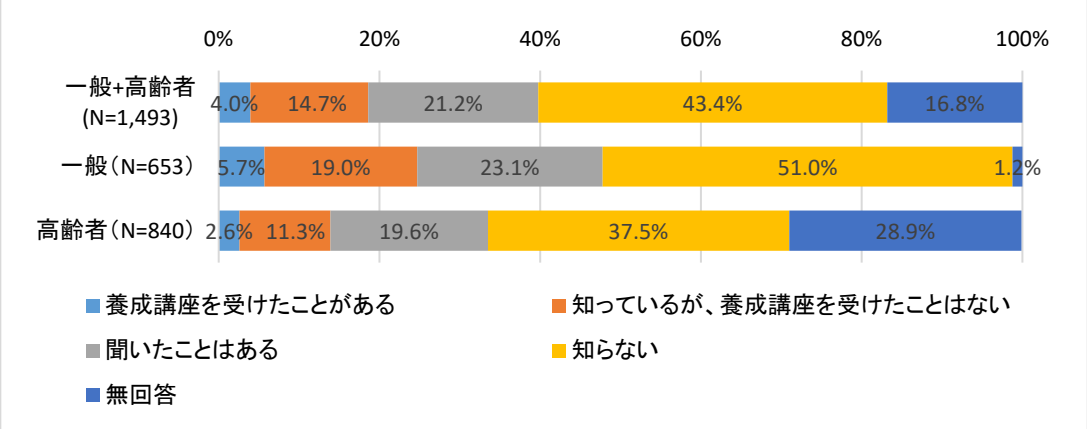
【認知症への理解不足が高齢者への虐待につながることがあることへの理解度について】（全体・一般・高齢者）

認知症への理解不足が高齢者への虐待につながることがあることについては、「知っている」の割合が、一般が 83.6%、高齢者が 78.6%となっており、高齢者に比べ、一般の理解度が高くなっている。

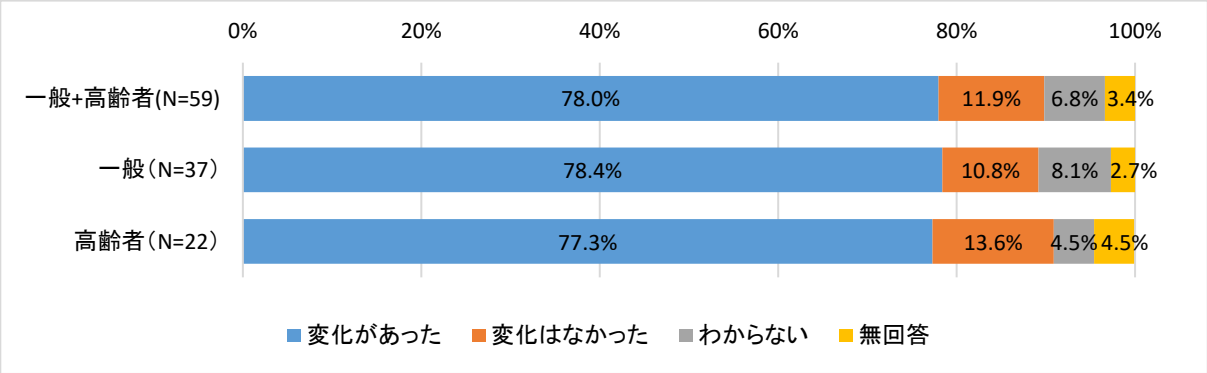


【認知症サポーターの認識度について】（全体・一般・高齢者）

「認知症サポーター養成講座」受講率については、一般が 5.7%、高齢者が 2.6%となっており、高齢者に比べ、一般の受講率が高くなっている。

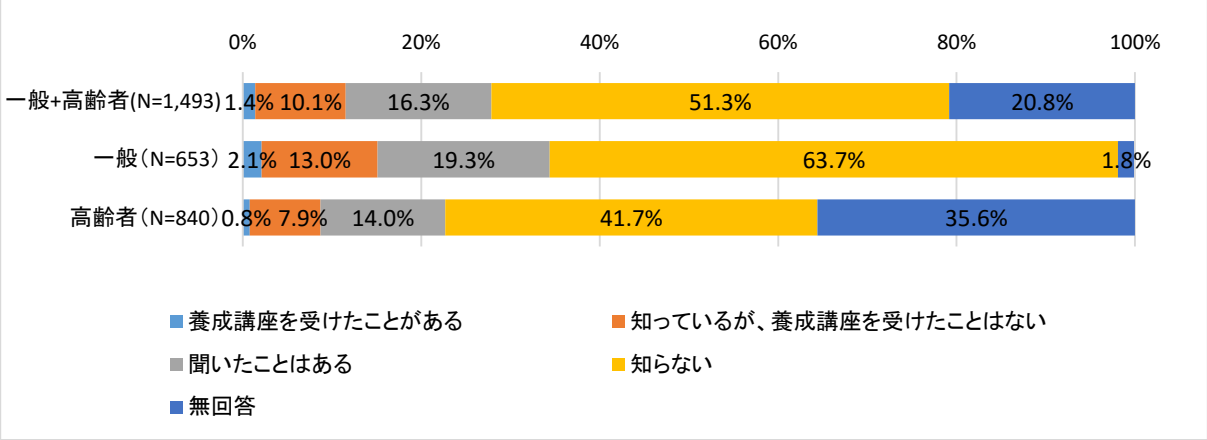


「認知症サポーター養成講座」受講者の認知症の方への対応の変化については、「変化があった」の割合が、一般が 78.4%、高齢者が 77.3%と大きな差異はみられない。

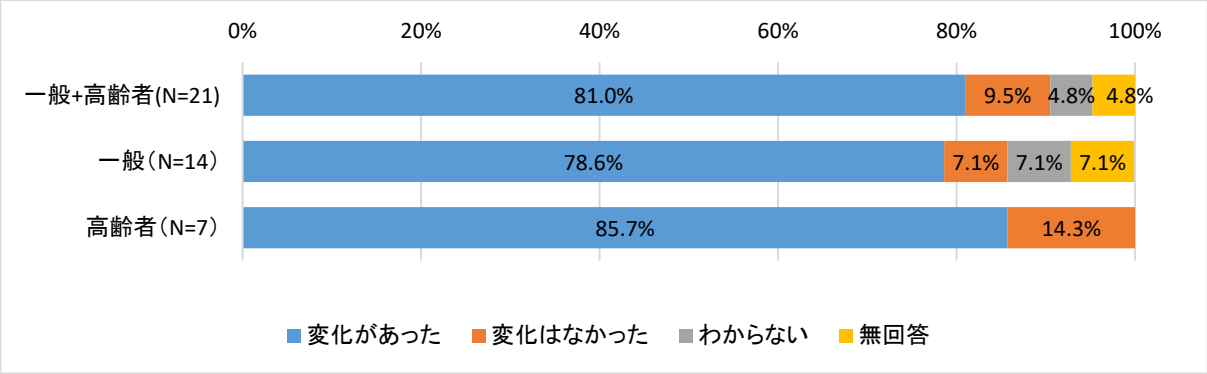


【認知症等見守りメイトの認識度について】（全体・一般・高齢者）

「認知症等見守りメイト養成講座」受講率については、一般が 2.1%、高齢者が 0.8%と大きな差異はみられない。



「認知症等見守りメイト養成講座」受講者の認知症の方への対応の変化については、「変化があった」の割合が、一般が 78.6%、高齢者が 85.7%となっている。

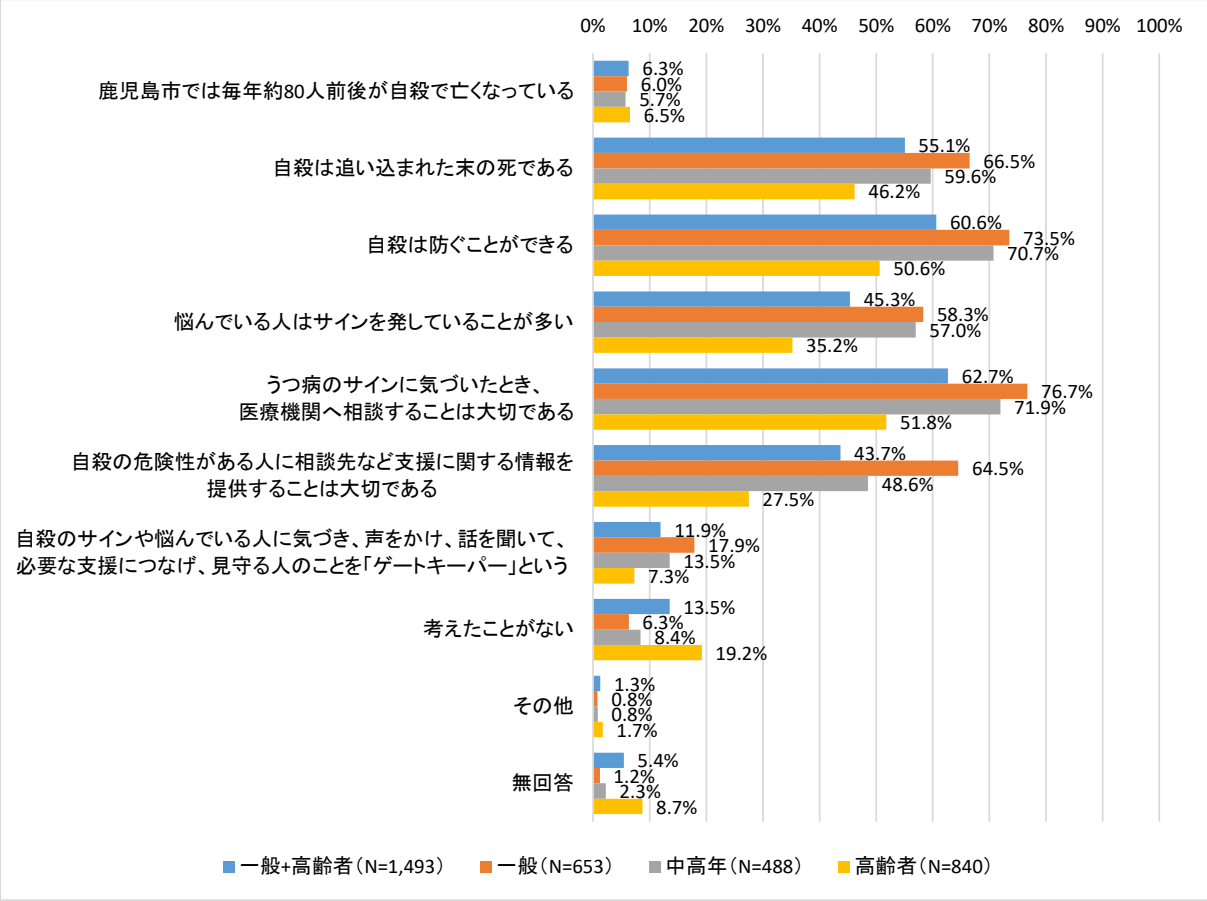


4　自殺予防について

※中高年については、一般と高齢者のうち 50 歳～69 歳の方を再集計したもの

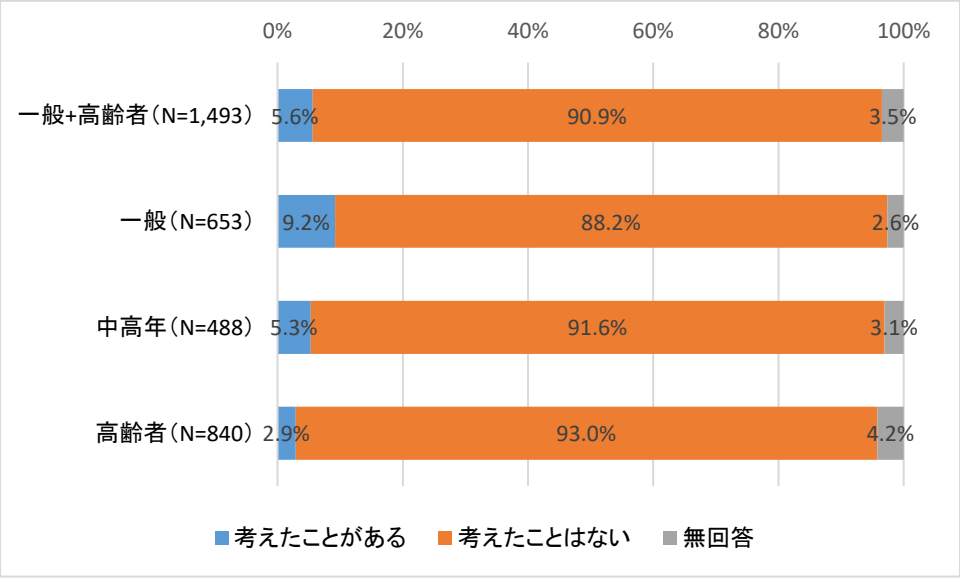
【自殺についての認識度について】（全体・一般・中高年・高齢者）　※中高年…50 歳～69 歳

自殺についての認識度については、「鹿児島市では毎年約 80 人前後が自殺で亡くなっている」「考えたことがない」「その他」を除くすべての項目で、一般が高齢者より高くなっており、年齢が低くなるほど自殺についての認識度が高くなっている。

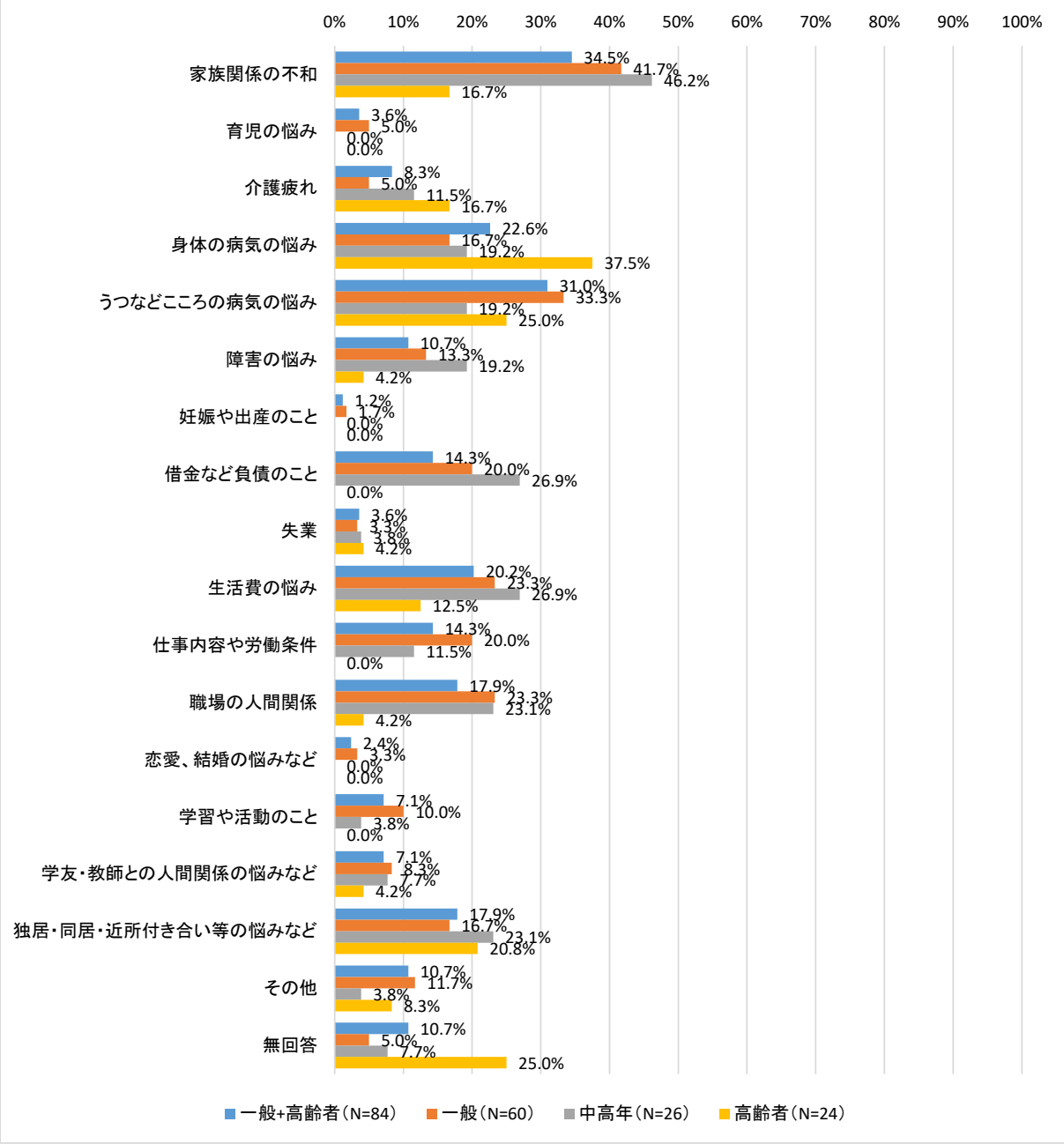


【自殺したいと考えた経験について】（全体・一般・中高年・高齢者）

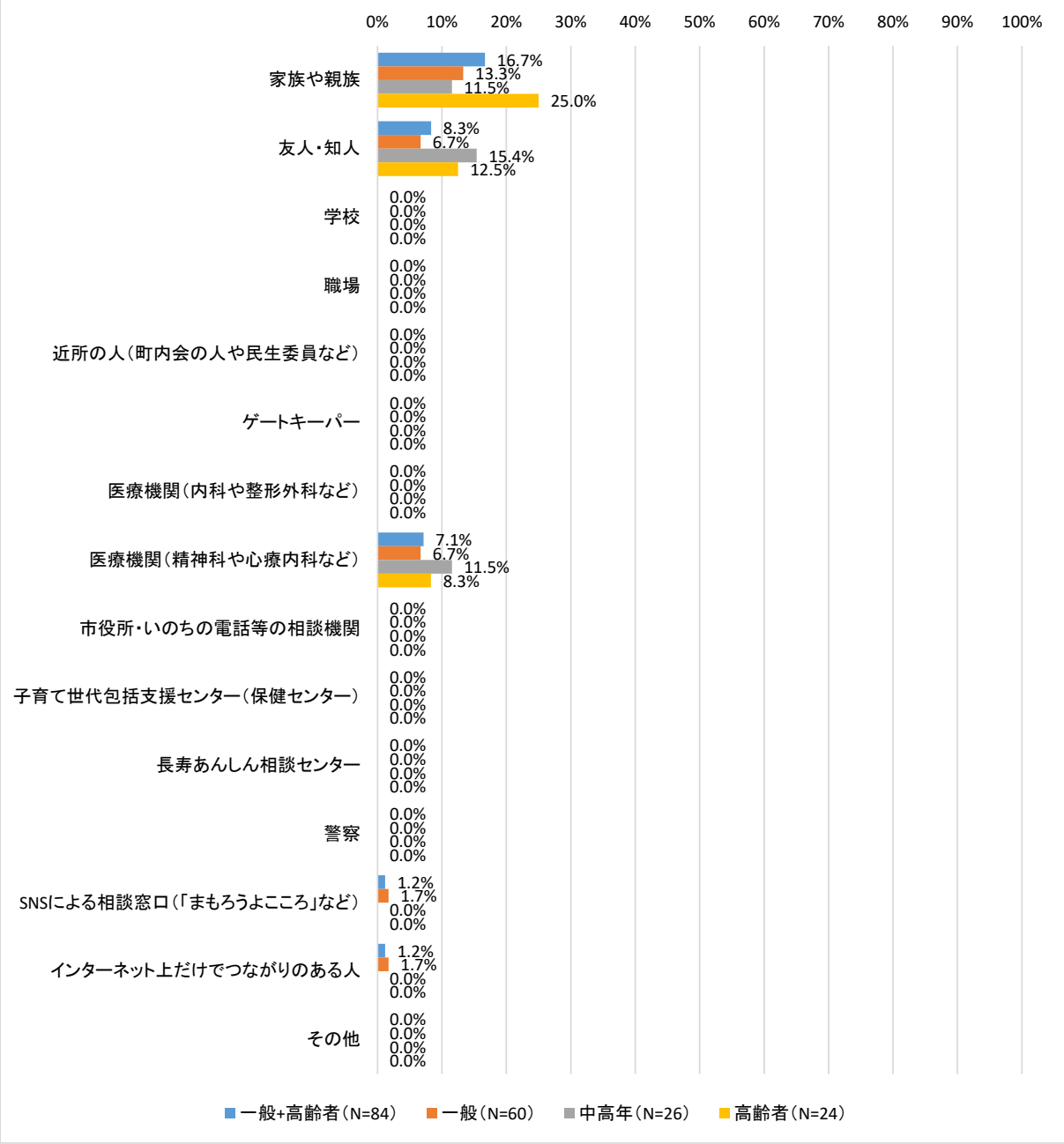
自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」の割合が、一般が9.2%、中高年が5.3%、高齢者が2.9%となっており、年齢が低くなるほど自殺したいと考えたことがある割合が高くなっている。



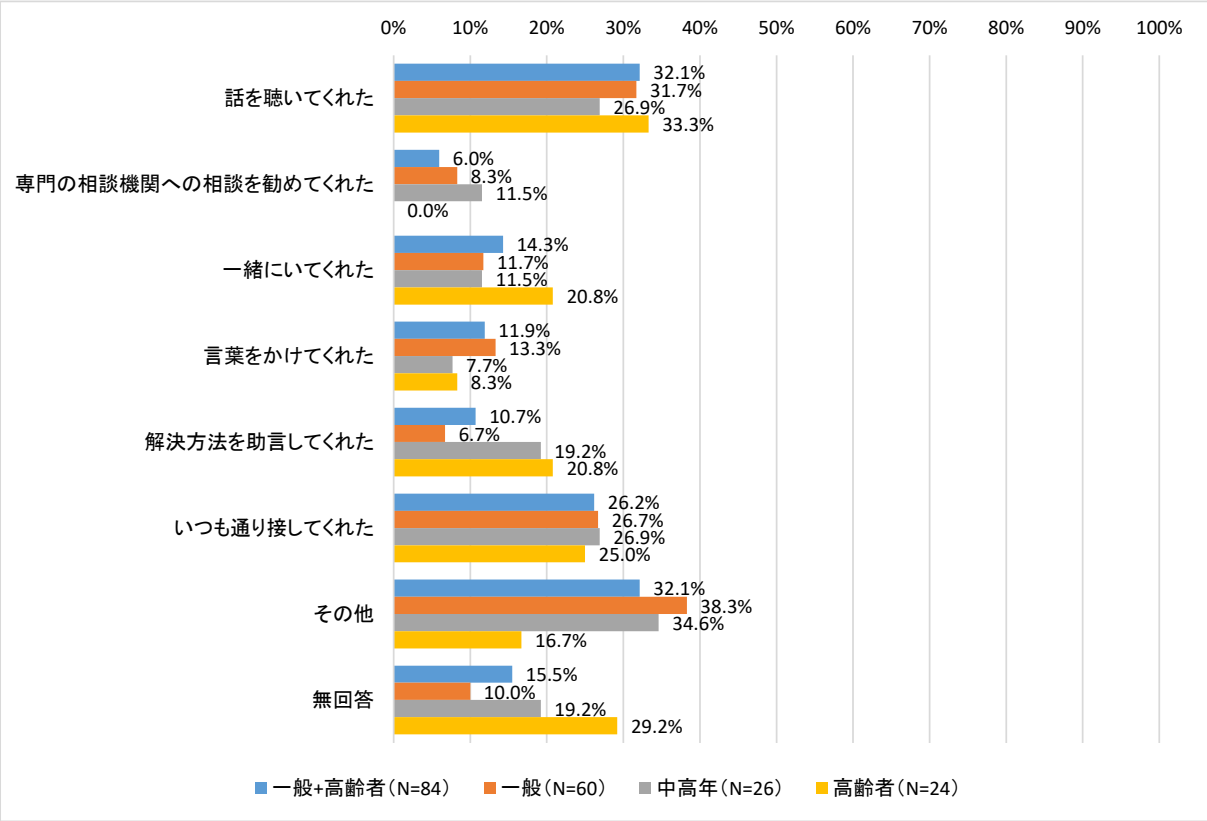
自殺したいと考えたときの原因については、一般と中高年で「家族関係の不和」の割合がそれぞれ 41.7%、46.2%と最も高く、高齢者では「身体の病気の悩み」の割合が 37.5%と最も高くなっている。



自殺したいと考えたときの相談先については、一般と高齢者で「家族や親族」の割合がそれぞれ 13.3%、25.0%と最も高く、中高年では「友人・知人」の割合が 15.4%と最も高くなっている。

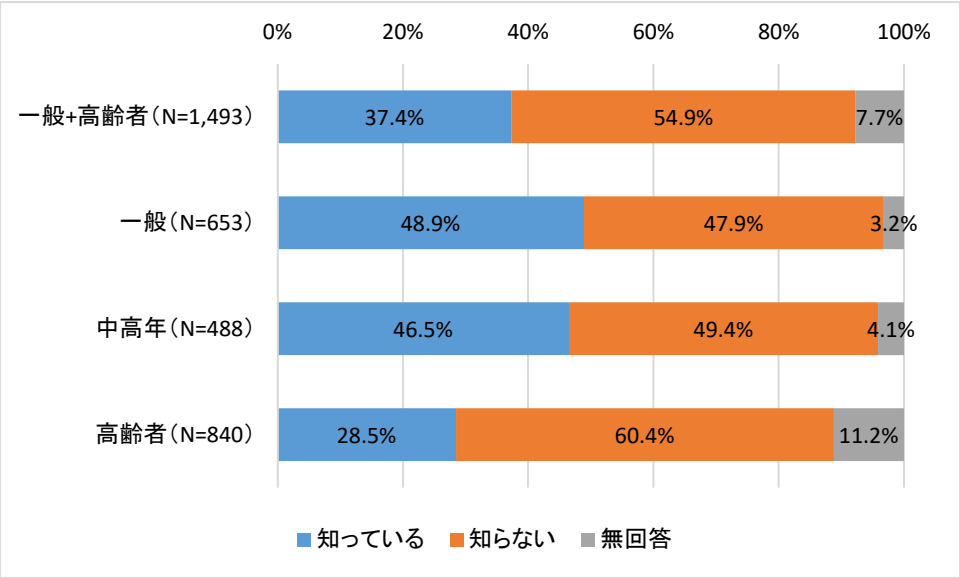


自殺を踏みとどまることができた要因については、「その他」を除いて、「話を聴いてくれた」の割合が、一般で 31.7%、中高年で 26.9%、高齢者で 33.3%とそれぞれ最も高くなっており、「いつも通り接してくれた」についても、中高年は 26.9%で同数である。



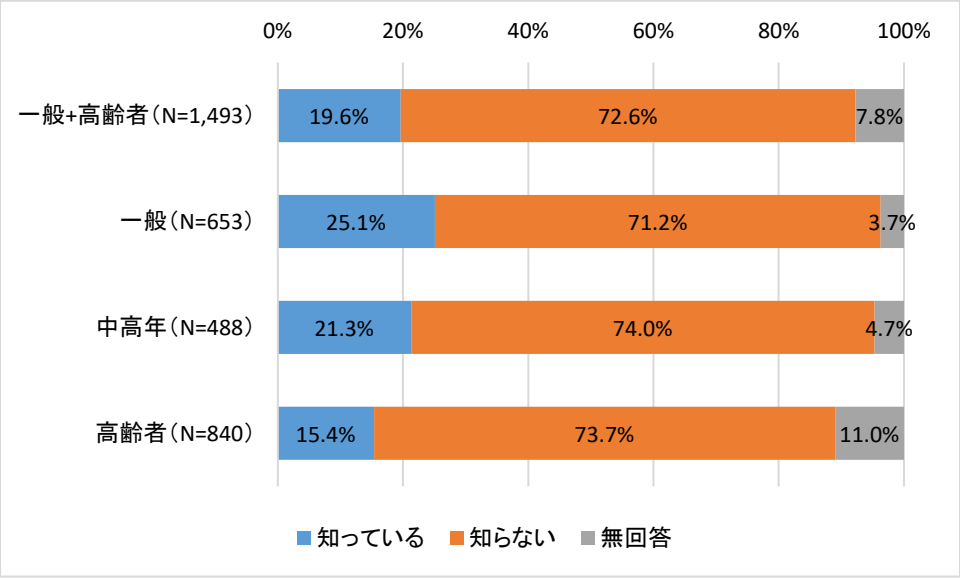
【自殺に関する相談先の認識度について】（全体・一般・中高年・高齢者）

自殺に関する相談先の認識度については、「知っている」の割合が、一般が 48.9%、中高年が 46.5%、高齢者が 28.5%となっており、年齢が低くなるほど認識度が高くなっている。

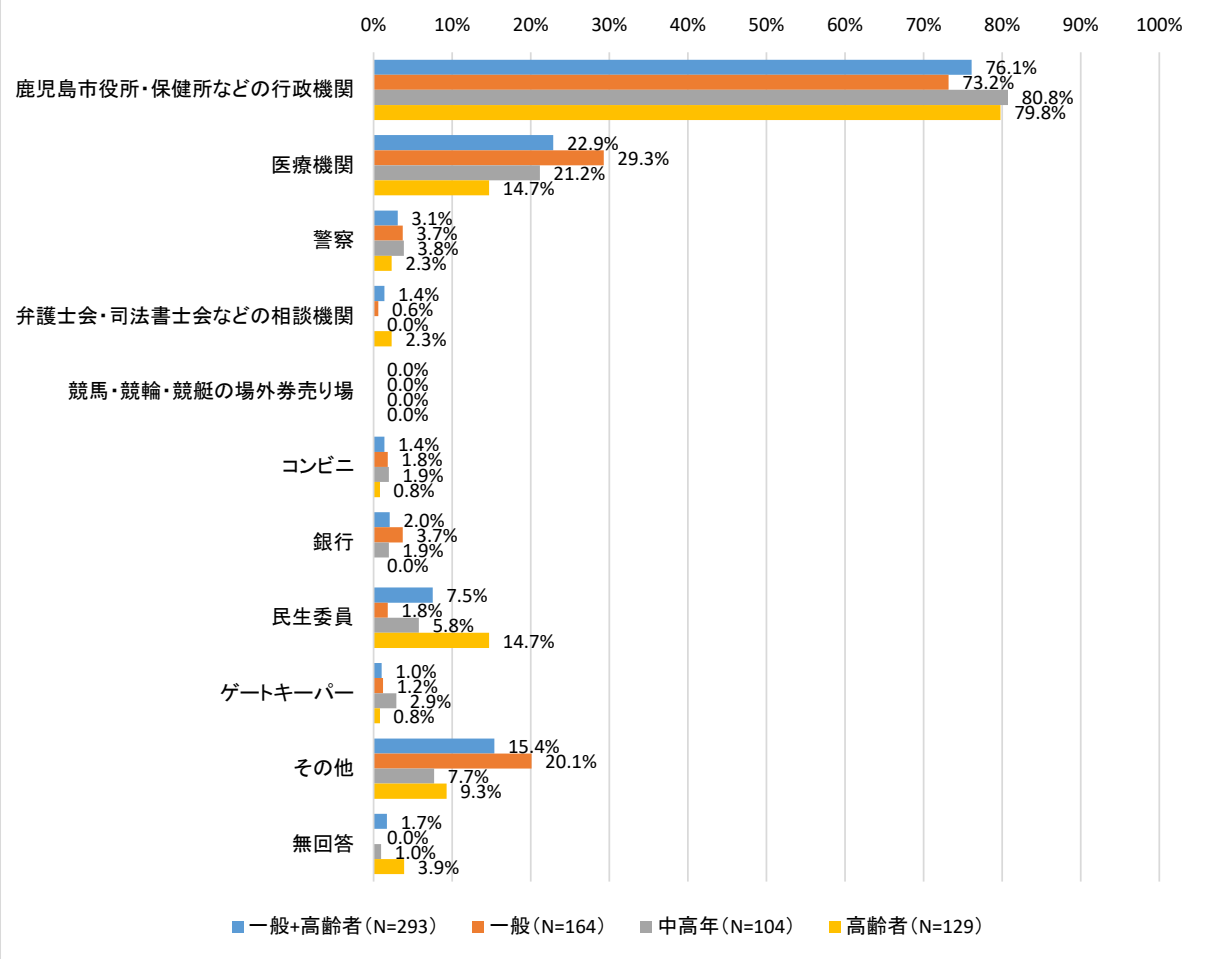


【『鹿児島市無料相談窓口』カードの認識度について】（全体・一般・中高年・高齢者）

『鹿児島市無料相談窓口』カードの認識度については、「知っている」の割合が、一般が 25.1%、中高年が 21.3%、高齢者が 15.4%となっており、年齢が低くなるほど認識度が高くなっている。

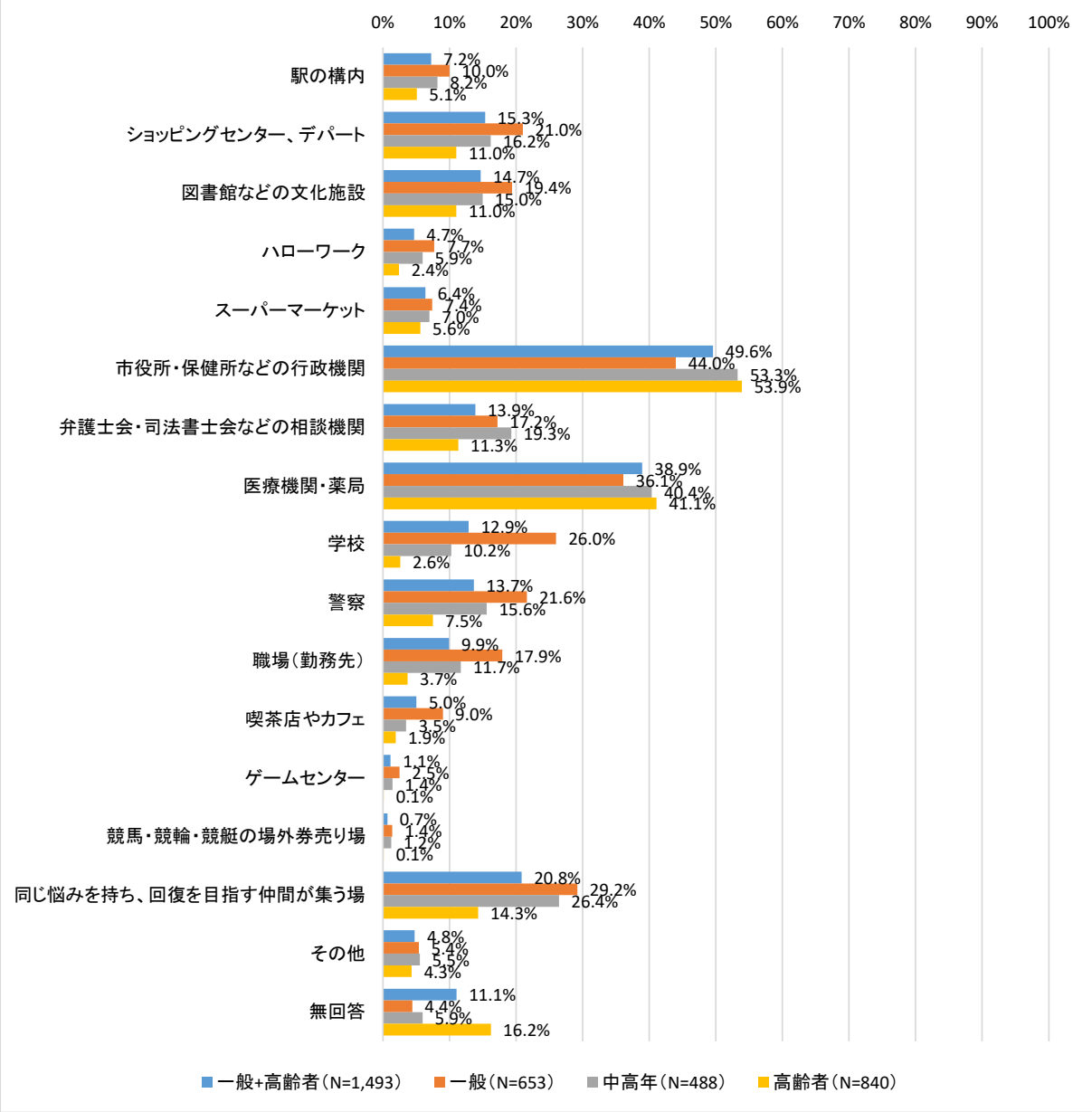


『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで（誰から）知ったかについては、一般・中高年・高齢者ともに「鹿児島市役所・保健所などの行政機関」の割合が最も高くなっている。



【相談しやすい場所について】（全体・一般・中高年・高齢者）

相談しやすい場所については、一般・中高年・高齢者いずれも「市役所・保健所などの行政機関」の割合が最も高くなっている。

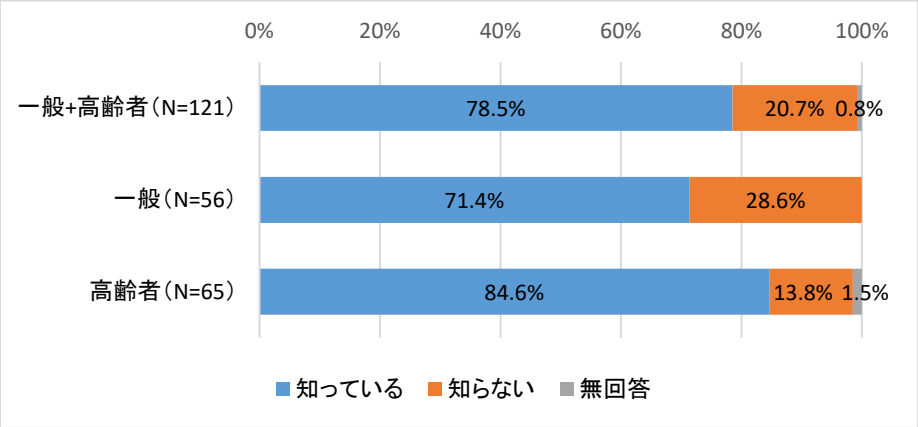


5　桜島の防災について

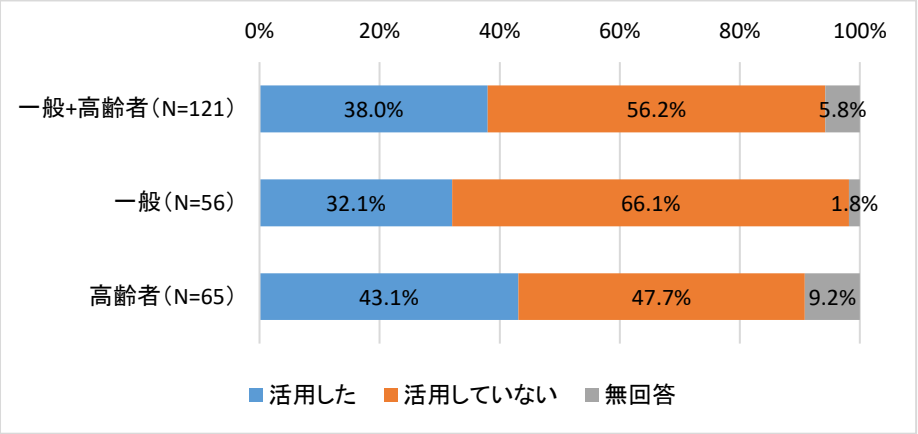
※お住まいが桜島地域と答えた方のみ対象

【「住民避難用マニュアル」について】（全体・一般・高齢者）

『住民避難用マニュアル』の認識度については、「知っている」の割合が、一般が 71.4%、高齢者が 84.6%となっている。



『住民避難用マニュアル』の訓練での活用状況については、「活用した」の割合が、一般が 32.1%、高齢者が 43.1%となっている。

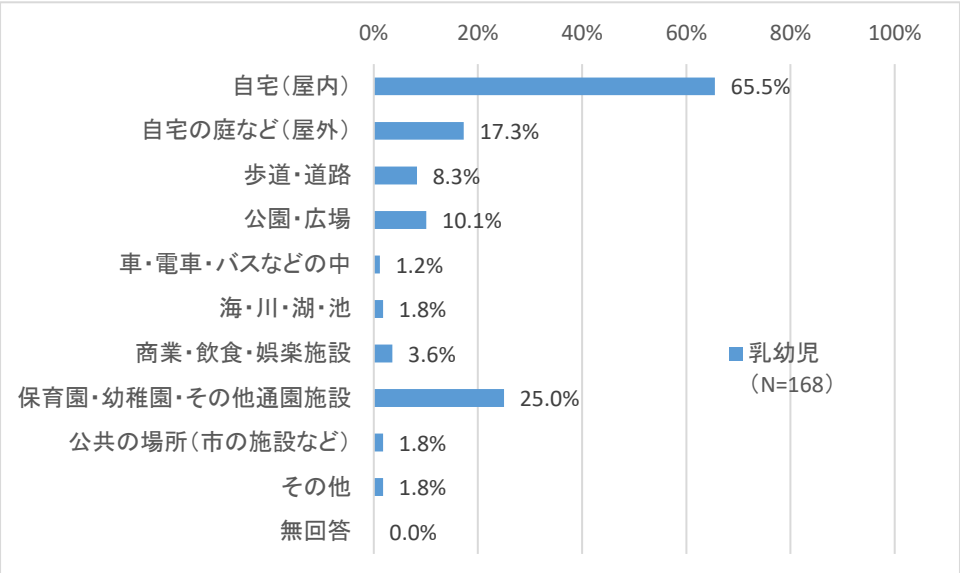


【再掲項目】（乳幼児・一般）

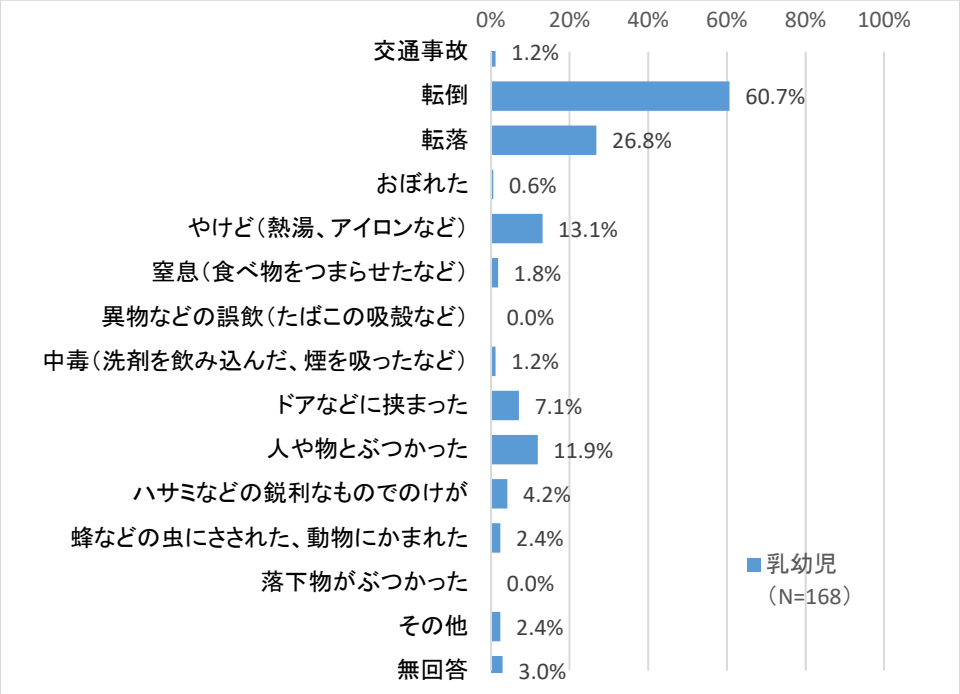
1　子どもの安全について

【事故やけがの経験について】（乳幼児）

事故やけがをした場所については、「自宅（屋内）」が 65.5％で最も高く、次いで「保育園・幼稚園・その他通園施設」25.0％、「自宅の庭など（屋外）」17.3％の順となっている。

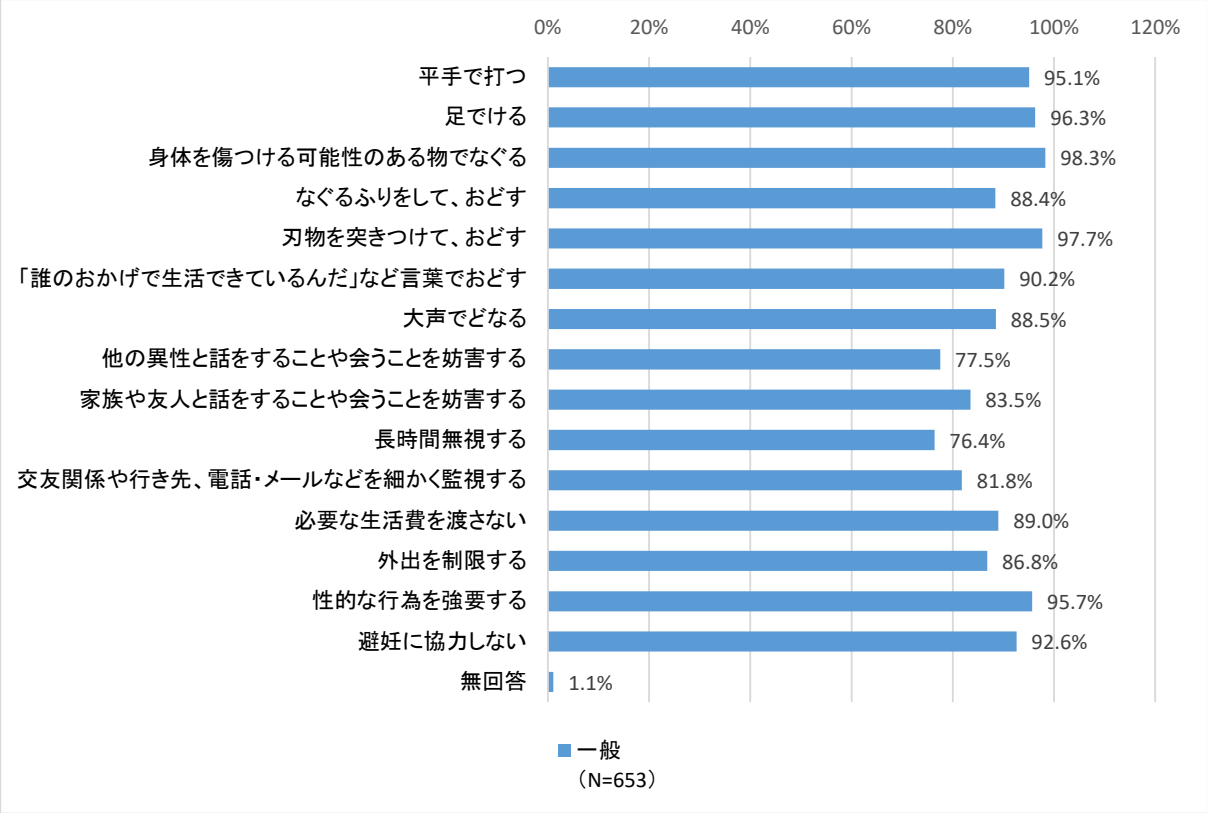


事故やけがの種類については、「転倒」が 60.7％と最も高く、次いで「転落」26.8％、「やけど（熱湯、アイロンなど）」13.1％の順となっている。



2　ＤＶ防止について

【暴力に関する理解度】（一般）

暴力に関する理解度については、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」が98.3％で最も高く、次いで「刃物を突きつけて、おどす」97.7％、「足でける」96.3％の順となっている。

理解度が低い行為は、「長時間無視する」76.4％、「他の異性と話をすることや会うことを妨害する」77.5％などとなっており、「身体的暴力」に比べ、「精神的暴力」に対する理解度が低くなっている。